

# 北上市P連会報

第38号

一発行日一  
平成29年  
(2017年)  
2月1日

発行：北上市PTA連合会

企画編集：広報委員会

印刷：北上アビリティセンター

## 第42回 岩手県PTA研究大会 和賀大会 特集号

平成28年11月6日(日)大会テーマ「ひろがれ夢!つながれ絆!かがやけ笑顔!みがけ親力!はばたけ岩手っ子!」のもと、北上市文化交流センターさくらホールを主会場として、第42回岩手県PTA研究大会和賀大会が、盛大に行われました。

本大会は、北上市PTA連合会としても今年度の一大行事であったことから、北上市PTA連合会会報は本大会の特集号とすることにしました。本大会に携わりました準備委員会、実行委員会、各分科会の役員、補助員の皆様、全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



目次	☆ 実行委員長ご挨拶 ..... P 2	☆ 第5・6分科会 ..... P 7
	☆ 記念講演 ..... P 3	☆ 第7分科会 ..... P 8
	☆ 第1・2分科会 ..... P 5	☆ 市P連役員・編集後記 ..... P 8
	☆ 第3・4分科会 ..... P 6	





## ご挨拶

和賀大会実行委員会委員長  
北上市PTA連合会会長  
北上市立和賀西中学校PTA会長

狩野弘之氏

平成28年度第42回岩手県PTA研究大会和賀大会は、北上市文化交流センターさくらホールをメイン会場として、県内からおよそ1,200名のPTA会員並びに関係者の皆様の参加をいただき開催されました。

「ひろがれ夢！つながれ絆！かがやけ笑顔！みがけ親力！はばたけ岩手っ子！」を大会テーマに、郷土である岩手の地から子供たちが大きな夢を持ち、大きく羽ばたけるようサポートできるPTA活動を目指し、7つの分科会を企画しました。全体会では腰塚隼人氏をお迎えし、頸椎骨折による全身麻痺から復帰した壮絶な体験で学んだ「命の授業～今の幸せに気づくことから夢は広がる～」と題した貴重な講演をいただきました。講演の中では命との接し方、人としての生き方を学び、会場に集まった全員が感動の渦に包まれました。

全体会でのアトラクションでは、全国高等学校総合文化祭において最優秀賞受賞経験のある北上翔南高等学校鬼剣舞部の皆さんをお迎えし、北上の郷土芸能である「鬼剣舞」を披露していただき、厳粛かつ勇壮な舞に会場全体が魅了されました。

分科会では、PTA組織の活性化を図る工夫、地域教育力を高めるためにPTAがどのような関わりを持ち続けるべきか、インターネットや犯罪から子供たちをどのように守っていくか、幸福な家庭の作り方の実践の工夫と子供たちとの認め合いや支え合いの重要性等、大テーマに沿って深く掘り下げた取組がなされました。また、分科会ごとにアトラクションを披露し、県内各地から参加した皆様への「おもてなしの心」にも配慮した分科会の企画になったと自負しております。

和賀大会は和賀地区PTA連絡協議会が主管で昨年5月に準備委員会を立ち上げ、大会テーマや組織づくり、全体会及び分科会の素案と構想について話し合い、今年5月の同協議会総会を経て実行委員会に切り替え、実質的な構築に向けて活動を展開してきました。一口に和賀地区と言いましても、現在は北上市、西和賀町の1市1町の合議体であります。平成の大合併以前は1市2町2村の5つの市町村から成る地区でありました。土地柄や地域文化、考え方、環境も違う地域のPTAではありますが、「全ては子供たちの健やかな成長」「子供たちの笑顔のために」という揺るぎない熱い思いが、今大会運営の礎となったことは衆目の一致するところでもあります。

これも一重に、ご多忙な中ご尽力いただきました準備委員会、実行委員会、当日の係分担を快く担ってくださった会員の皆様と、ご参加いただきました各地区PTA会員の皆様のお陰であると感謝しております。

昨今、子供たちの置かれている環境は、都会や地方の垣根を越えて様々な出来事が同時進行的に起こっているのが現実です。そんな中、今大会のテーマのように郷土から地域力を最大限発揮したPTA活動が重要であると考えております。

最後に、ご参加いただきましたご来賓の皆様、PTA会員の皆様、そしてご尽力くださいましたスタッフの皆様に心より感謝を申し上げ、結びのご挨拶と致します。



# 記念講演

演題

## 命の授業 ～今の幸せに気づくことから夢は広がる～

講師

## 腰塚 勇人 氏

中学校の体育教師として順調な人生を歩んでいた2002年3月1日、スキーでの転倒で「首の骨」を折り、奇跡的に命は取り止めたものの、首から下が全く動かなくなった。当時、医師からは「一生寝たきりか、よくて車イス。学校現場には戻れないでしょう」との宣告を受け、舌をかんで自殺しようとしたこともあった。  
(動画) <https://www.youtube.com/watch?v=T9E2sYaPmA4>

### ■ 看護師さんから教わったこと

心が折れて投げやりな気持ちになっているとき、看護師さんから「一緒に頑張らせてください。助けてほしいときは言葉にしてください」と言われ、卑屈になって悲劇のヒーローを演じるのではなく、素直な気持ちで「助けて!」を発信することの大切さに気付いた。同時に、「ありがとう」の感謝の気持ちもきちんと言葉に表そうと決めた。



### ■ 周囲の人々の励まし

「もう体育の教師はできない」と失意の日々を送っていたある日、生徒たちから励ましの手紙をもらい、考えが前向きになった。「学校に復帰したい」という一念で激痛を伴うリハビリに一生懸命耐え、ついには自力で歩けるまでに回復した。その思いをくんで教育委員会に何度も足を運んで陳情してくれた教頭先生等の努力が実り、数ヶ月後、ついに3年生の担任として学校現場に復帰することができ、その後8年間中学校に勤務することができた。

しかし、自分が立ち直る夢を与えてくれた多くの人に感謝し、今度は自分が夢を与える人になるべく「命の話をしよう、命の話を伝えたい」と思い立ち、教師を退職して全国で講演をし始めた。

### ■ ドリー夢メーカー（リスクテイカー・パワーチャージャー）vs ドリー夢キラー

夢を与えてくれる人（ドリー夢メーカー）とあきらめる人（ドリー夢キラー）が自分の中に同居している。我を投げ打ってでも自分のために一生懸命頑張ってくれる人（リスクテイカー）、やる気スイッチをONにしてくれる人（パワーチャージャー）の助けをもらいながら、自分の中のドリー夢メーカーと生きる時間を長くしよう。周囲の人のドリー夢メーカーになってあげよう。

夢あれば困難あり  
困難あれば仲間あり  
仲間あれば感動あり

4つの幸せ：愛されること、ほめられること、  
人の役に立っていること、人から必要とされること

### ■ 「当たり前」

感謝や「ありがとう」という言葉の反対。「当たり前」のことに感謝することが大事。

当たり前の人を失うと人生に大きなダメージを受ける  
親を亡くすと過去を失う 友達をなくすと今を失う 子供をなくすと未来を失う

## ■命のバトン

命のバトンを受け継いで今ここに自分の番を生きている。  
代々脈々と続いてきた自分の命を傷付けることは、自分を守って支えてくれるドリー夢メーカーを傷付けることになる。友達や子供たちの命を傷付けることは、その命を守っているドリー夢メーカーを傷付けることになる。

## ■命を喜ばせる生き方

「自分の命の使い方」は、命を喜ばせる使い方になっているか？  
自分を大事にする人は、周りの人を大事にできる。

## ■5つの誓い（私のドリー夢メーカーがしてくれたこと）

口は人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。  
耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。  
目は人のよいところを見るために使おう。  
手足は人を助けるために使おう。  
心は人の痛みがわかるために使おう。

## ■こんな言葉があります

笑顔の人に人は集まり、不機嫌な人から人は離れる。  
感謝を言う人に人は集まり、悪口を言う人から人は離れる。  
話を聞く人に人は集まり、聞かぬ人から人は離れる。

笑顔でいますか？ ありがとうございますを言っていますか？ 話を聞いていますか？

## ■こんな言葉があります・2

今の自分の言動は、未来の自分の予言者である。  
今の私は、前に一度生きてきた私

どう生きるか決めるのは誰ですか？

## ■こんな言葉があります・3

私は私の人生の主人公  
私は私の行動の責任者  
全ては自分が源



## ■大事にしている言葉

「才能がない」「実績がない」「資格がない」という言い訳 本当にないはやる気と覚悟  
自分の子供が何かあったら、それは親である自分の責任。  
先生や世の中のせいにはしない。

親と先生が「助けて」を発信し合い、お互いに助け合っている姿を子供に見せたい。

## ■親として

親として「学校が楽しい」という子供の言葉がうれしい。子供たちの幸せのために先生たちに元気でいてもらうため、先生たちを応援したい。

## ■大人として

全国に本当に子供たちの成長を願っている人たち、特にPTAの人たち…素敵な大人たちがいる。「大人を信頼していいからね」と言いたい。

## 第1分科会 「組織運営」

### 分科会テーマ

組織・運営の活性化を図るPTA活動  
～統廃合に見える組織作りの工夫～

### 基調講演

岩手大学教育学部 教授 田代 高章 氏

「統廃合における学校と家庭・地域の連携の課題」と題して、岩手大学教育学部田代教授に講演を行っていただいた。

まずは、「統廃合をめぐる現状」について、公立小・中学校児童数の減少に伴い、学校数も着実に減少していること。学校統廃合の長所は、多様な意見に触れる機会が増えることにより、社会性やコミュニケーション能力の向上等があげられる。一方、短所としては、きめ細かな指導ができにくく、伝統文化等の衰退等も考えられることの2点についてお話をいただいた。

次に、「学校と家庭・地域の連携の課題」について、少子高齢化や都市化、過疎化の進行に伴い、連携が重要性であること。地域に開かれ、地域とともにある学校が求められていること。(参画・対話・共同) PTAは、情報の共有や日常的な交流に努めるなどの工夫が必要であることの3点からお話をいただいた。

### パネルディスカッション

基調講演後、コーディネーターに沢内小元PTA会長の廣田宏氏、パネリストに前沢小PTA会長小野寺勝氏、東和中元PTA会長浅沼直行氏、軽米中PTA会長大崎純也氏をお招きし、パネルディスカッションを行っていただいた。

最初に、統廃合を経験した各校PTAの当時の状況等を交流し合った。スクールバスの運用について、制服等について、役員決め等に触れられた。

次に、統廃合後の工夫を交流し、地区懇談会の持ち方の工夫、各地区を代表する方がリーダーとなるなどの紹介があった。

最後に田代教授からまとめをもらい、「PTAを発展させるためには、幅広い関わり方が必要であること」を確認することができた。



## 第2分科会 「研修活動」

### 分科会テーマ

未来につなぎ 力強く歩いていこう 歌と地域力で

### 基調講演

シンガーソングライター「光(ひかる)」氏



会場の拍手から始まった「光(ひかる)」氏による復興祈念ライブ。出身地である山田町の映像を映し、復興祈念ライブについての氏の考えとともに現在の状況をお話いただきました。これまでの復興支援に対する感謝の気持ちを込めて、1曲目『感謝の気持ちをあなたに』を歌っていただきました。

次に、震災の影響での気苦労から体調が優れないお母様に贈る曲『強がらないで』をしつとりと、そして明るい曲『青き美しき海の島々』を手拍子もあわせて歌っていただきました。氏が行っている「ライブ&ギター体験会」を通して、岩手全体を高めていくことが復興支援と考えていると述べられ、楽しい曲『絆』を歌っていただきました。最後は、

参加者全員で復興支援ソング『花は咲く』を合唱しました。

### パネルディスカッション

東陵中学校PTA副会長昆氏をコーディネーターにお願いし、「光(ひかる)」氏、川井中学校長八重樫氏、NPO法人フォルダ代表司東氏、NPO法人明日の黒岩を築く会理事長藤本氏4名のパネラーに、震災当時の様子や復興に向けた取組、またどのような支援を行い、今後どのような支援が必要で、どのように関わっていくのかをお話いただきました。「光(ひかる)」氏は、「震災後山田町の町並みは、黒く焦げ、まるで炭のようでした。初めは食料支援を優先に考え行動しましたが、その後、内陸に避難してきた方々の落胆の様子を目にし、再度自分で何ができるかを考え、地元が風化しないように復興祈念ライブ等で地域の現状を伝えていくことにしました。」とお話されました。



## 第3分科会 「健全育成」

### 分科会テーマ

地域教育力とPTA

～子どもと親が共に学び育つために～

### 基調講演

前岩手大学教育学部長 新妻 二男 氏

専修大学北上高等学校を会場に開催された第3分科会では、アトラクションとして江釣子中学校吹奏楽部による演奏があり、その後、前岩



手大学教育学部長新妻二男先生の基調講演が行われました。内容及び感想を報告致します。

新妻氏は、宮城県栗原市志波姫町出身で、御自分の幼少時代の様子をエピソードを交えながら、講演がスタートしました。雑談かと思っていると、子育ての重要性や時代背景などの説明が含まれており、現在との比較で子供たちの課題を浮き彫りにしました。

そして、学校がなかった時代と近代を比べながら、学校、地域、家庭を子供の発達場にふさわ

しいようにすることが我々大人の責任であると述べられました。

そして、PTAの2つの役割（社会教育を中心とした活動をやること、子供の福祉の増進に努めること）にも触れ、子供の諸問題の変遷（経済的貧困による課題から不登校や学力・体力の低下）を述べられました。

一番印象に残っているのは、「教育問題は、学校だけでも家庭だけでも解決しない。だからみんなで取り組む。」という部分でした。共働き世帯の増加や少子化による地域行事の減少等、子供に関わる時間が少なくなっていると感じる今、積極的に学校と連携を密にし、教育環境向上のために、更に活動をしていかなければならないと改めて感じました。

残念ながら時間の都合上、質疑応答の機会は無かったものの、新妻先生の明るく元気な声、特には笑いありの熱い講演に、参加者全員が有意義で貴重な時間を過ごせたのではないのでしょうか。



## 第4分科会 「家庭と小学校教育」

### 分科会テーマ

スマホ社会の小学生と親の役割

### 基調講演

LINE株式会社

公共政策室 公共政策担当 高橋 誠 氏



ウェルカムマスコットのいも丸くんと桑ちゃん、二子鬼剣舞少年団の子供たちがお出迎え。「おはようございます！」二子小学校の子供たち

の明るく元気な声がロビーに響き渡ると、皆さんはニコッと微笑み挨拶をしてくれました。煤孫ひな子剣舞保存会(いわさき小学校児童)による華やかな念仏組踊りで幕開けた第4分科会は主催者代表当大会広報部長(鬼柳小学校PTA) 池田裕徳氏の歓迎の挨拶の後、LINE株式会社公共政策担当 高橋 誠氏をお迎えし、基調講演が行われました。

子供たちを取り巻くインターネットの現状と利用実態を基に、LINEに関する機能や子供の利用例、リスク対策についての説明のほか、子供向け

に実施しているワークショップの内容を取り入れながら、子供をインターネットトラブルから守るために、有効な情報や



注意すべきポイントをご紹介いただきました。青少年のネットリテラシー(情報知識の活用力)啓発の推進と、様々な視点から個々の価値観を知ることの大切さを改めて意識する講演でした。

閉会では、執行部から『いじめによる少年少女の自殺の問題について』のメッセージが読み上げられました。会場が一瞬にして沈静する中、いじめに関わる側、いじめを受ける側双方を大切にするためには、我が子への愛情＝責任をどう示すべきなのか？ふと我に振り返る貴重な時間になりました。

『ふゆ 雪に埋もれていても 種は春  
お日さまの愛で 花開く』  
都はるみ 【愛は花 君はその種】より



## 第5分科会

## 「家庭と中学校」

## 分科会テーマ

幸福な家庭は家訓と立志から始まる！

## 基調講演

臥龍こと 角田 識之 氏

基調講演として「立志と家訓の両輪で子供たちの生き抜く力を支援しよう」と題して、長年立志教育を推進してきた我龍こと角田 識之氏による講演が行われました。

まず、社会への出口で起こっていることとして、若者の3年内離職率が3割を超えていること、新卒ニートが3万人いること、就職失敗時雑の多さの3点についてお話がありました。共通項は、学生時代「いい子」だったこと。真の原因は、意思決定をさせないまま社会に出ていること。根本的な対策は、志を持たせること。「何のために勉強するのか？世界一幸せな国日本を作るために、社長のあなたができることは何ですか？」と子供たちに問いかけ、子供たちに自分の人生を考えさせることの重要性を強調されていました。

家庭でできる立志教育として、「夢・目標」と「志・



使命感」の違いについて、「夢・目標」は自分の中から出る「したいもの」。嫌になったらやめることができる。「志・使命感」は、社会の希望に応える「やるべきもの」。後藤新平や新渡戸稲造など、地元の偉人の話が効果的である。子供が夢を語ったときに、親は「できる、できない」や「食べる、食えない」で語ってはいけないこと、人と比べない「カメの目」を与え、「あきらめないこと」の大切さを語るなどのお話がありました。

立志の大切さについて改めて考えさせられ、大変充実した時間を過ごすことができました。

## 『家訓カード』の例

- 1 朝は相手の名前を言ってから「おはようございます」とごあいさつしましょう。
- 2 お名前を呼ばれたら「ハイ」と言ってお返事しましょう。
- 3 お約束した時間を守るため、時計を見ましょう。
- 4 靴、かばん、服など自分が使ったものは、決めた場所に揃えて戻しましょう。
- 5 感謝の気持ちは「ありがとう」で伝えましょう。
- 6 家族をはじめとする周りの人がニコニコできるように、自ら笑顔で嬉しいこと喜ばれることをしましょう。
- 7 私の夢は家族の夢。お互いお手伝いできることを見つけて協力しましょう。

## 第6分科会

## 「家庭教育セミナー」

## 分科会テーマ

認め合い 支え合い とともに生きる心を重ねて  
～どの子も伸びる！ 37年+4年の実践報告～

## 基調講演

岩手県立黒沢尻北高等学校 元校長

上原 耕太郎 氏

37年間の高校教師と4年間の塾講師の経験をもとに、多くの生徒から教えられた子供の成長のヒントについて講演をしていただきました。



初めに、「『変化』する社会の動きとそれへの対応」についてのお話であった。現在のような変化の激しい時代に若者に求められるのは、新しい知識やスキルを柔軟に吸収・形成できる能力、それを「自分の頭で考える力」ではないか。一生のうち何回か仕事を変える時代が来るので、新しい職業に就けば学ばないといけない。親は英会話でもいい、まず学ぶ姿勢を子供に見せることが有効であると述べられた。

次に、「親ができること・やった方がいいこと」として以下の3点を強調された。すなわち、「子供を信じて『大丈夫だ、大丈夫だ』と言いつけること。」「食生活が『気力・集中力』の素。勉強・活動に影響を及ぼすこと。」「学び続けることのできる人になること。」の3つであった。

続けて、「現職時代に痛感したこと」「勉強するのに、一番大事なこと」のお話があり、最後に「将来社会で活躍していくためには」として、

- 1 高校時代の挑戦、勉強に部活動は将来の財産になる。部活動を本気で取り組めるのは、高校時代しかない。
- 2 自らの意思でハードワークをしていけば、人生は切り開かれる。

の2点をお話された。

Tシャツも何枚も表れ、大変有意義な時間でした。



## 第7分科会 「特別課題」

### 分科会テーマ

子供を犯罪から守るために

### 講 話

#### 第1部 「県内の治安情勢（子供の情報を含む）」

北上警察署 生活安全課長 及川 克明 氏

県内の刑法犯認知件数は、過去5年で最も少なく平成27年は4,884件と5,000件を切った。同じく同年の刑法犯少年及び不良行為少年の数も大きく減少傾向であり、落ち着いてきている。



初発型非行である万引きや自転車盗難、バイク盗難等で大きく占めるのは万引きで、全体の7割を超えている。その万引きの中で、小中学生を合わせると6割となっている。

インターネットやスマートフォンは社会にとって有益なものではあるが、危険もつきまとう。大人側が知識を持った上でフィルタリングの設定をはじめ、ルールを決めて安全に使っていく必要がある。

後半は、DVDによる「スマートフォンを安全に使っていくための啓発映像」により、実際に起きた体験から、子供にスマートフォンを安全に使ってもらう対策を学んだ。

#### 第2部 「市内の子供たちを取り巻く防犯情報」

北上市まちづくり部 地域づくり課

生活安全係長 菊池 嘉雅 氏

北上市は、北東北の十字路口として企業を誘致し工業出荷額が県内上位である。また、インターハイや国体などのスポーツ大会誘致にも成功しており活気に満ちている。しかし、外国人による犯罪や暴力団の進出が懸念されている。

平成24年には防犯まちづくり基本計画を策定し、市のみでなく警察や企業、地域、市民の役割を明確にし、「市民の防犯への関心を高めること」「地域の防犯機能を高めること」「環境の安全性を高めること」の3つを目標に掲げた。そして、その達成に向けそれぞれの立場で活動したり、お互いに協働し活動をしたりしている。



————— \* ————— \* —————

### 平成28年度 北上市PTA連合会役員

- 〈会 長〉 狩野 弘之 (和賀西中P会長)
- 〈副 会 長〉 寺田 静江 (飯豊小P会長)
- 田鎖 祥子 (黒沢尻北小P会長)
- 高橋 克史 (江釣子中P会長)
- 多田 和弘 (黒岩小P会長)
- 池田 裕徳 (鬼柳小P会長)
- 〈監 事〉 齋藤 美和 (更木小P副会長)
- 小原 正弘 (いわさき小P副会長)
- 寺嶋 綾 (黒沢尻西小P副会長)
- 〈顧 問〉 齊藤 晃 (飯豊中前P会長)
- 〈事務局長〉 高橋 明浩 (和賀西中 事務局担当)

### 平成28年度北上市PTA連合会広報委員会

- 〈委 員 長〉 池田 裕徳 (鬼柳小P会長)
- 〈副委員長〉 多田 和弘 (黒岩小P会長)
- 〈委 員 員〉 木野 渉 (黒沢尻東小P会長)
- 千葉 周作 (立花小P会長)
- 川邊 民弥 (二子小P会長)
- 菅野 正史 (口内小P会長)
- 齋藤 映香 (江釣子小P会長)
- 武田 保男 (笠松小P会長)
- 小原 芳 (和賀東小P会長)
- 佐藤 真弘 (上野中P会長)
- 佐藤 健 (飯豊中P会長)
- 小原 和弘 (和賀東中P会長)
- 〈事 務 局〉 梅木 康行 (鬼柳小P事務局)
- 粟野 牧子 (黒岩小P事務局)

### 編集後記

本年度、この和賀地区において岩手県PTA研究大会が行われました。時代とともに移り変わる環境の中での教育の現状や、青少年を取り囲む今の状況や課題、命の尊さ、人間の尊厳、夢を追いかける大切さを間近に聞くことにより、青少年たちが健やかに成長できるように、改めて真剣にPTA事業に取り組んでいかなければならないと感じた大会でした。参加者に良い刺激となったこの大会を掲載した会報誌が、今後の学校の事業、PTA事業、青少年事業の啓発につながればと強く願うものでございます。

最後に、この会報誌を発行するに当たり、ご協力をいただきました北上市PTA連合会会長様、各分科会の班長の皆様方に心より感謝申し上げます。